



城東

● 城東地区 ●
1944 世帯
男 1734 人
女 1832 人
合計 3566 人
R4.9.1 現在

女鳥羽せっけん工房

岡の宮町会にせっけん工場があります。お肌に悩みを持つ方々からは有難い存在として結構知られていま



幸いにもお肌健やかな方々にはあまり知られていなくて残念に思え、今回工房の主催者である今井里美さんを訪ねました。

人に苦しんでいたから…。人は本来治療能力があり、トラブルは注意警報なので



その本来の治療能力を十分に発揮できるお手伝いをするのが女鳥羽せっけんと考えれば判りやすいでしょうか。

せっけん作りの講習で技術を学び家族向けに作っているうちに裾分けした友人・知人から注文を受けるようになり、せっけん作りを生活の糧に、と考えたそうです。



だからと言って商売となると届けること、許可を受けること、山積で「品質良好」だけでは営業許可は下りず、パートナーの「ずく」に活躍して貰いどうにか認可されたのでした。

「合成洗剤追放運動」は食用油を原料に洗濯用として作りました。いわゆる化粧せっけんとは一線を画し、製造・頒布が許されるものでした。

里美さんの作るせっけんはまささらな油を使う化粧せっけんなので「薬事法」に従わなければならなかったのです。素地に使うのはオリーブ油50%、パーム油とココナ

ツ油25%ずつ。それぞれが汚れ落とし、固める、泡立てると特徴が違います。他にアーモンドやアボガド、マカダミアンナッツなどを加えて香りや色を変化させ、より使いやすくと工夫されています。

最近はお糞菌に注目、これを活かしたせっけん・シャンプーなどを作っています。

糞菌が体に良いとは知っていましたが、でも、これをせっけんやシャンプーに使うなんて…。里美さんの着眼点に脱帽・絶賛。

アトピーや蕁麻疹・肌荒れでお悩みの方々は是非女鳥羽せっけん工房を尋ねてください。

なぜ今せっけん？

TVで一日中「汚れが落ちる」「良い香り。」と合成洗剤が宣伝されます。でもせっけんを使う人がいます。その多くは「環境を考えて」と言います。

主婦湿疹・富栄養化が言われたころに比べれば合成洗剤は質が向上したとはいえ、只、今でも「化学物質排出把握管理促進法」で合成界面

活性剤が「第一種指定化学物質」として人体・環境に深刻な影響を及ぼすものとされています。但し、市販される洗剤類に使われるのは極微量だから…と使用が許されているのです。

でも、洗濯や風呂の廃液を一齐に排出して環境に影響なしと言いきれるのでしょうか。浄化されるとはいえ、松本市の排水は犀川を經由して長野市の水道水になるのです。

政府も行政も、SDGsとか、エシカル消費とか掛け声をかけます。聞いていると恰も環境問題は民間人の意識にあると聞いた方がいいです。けれど商品の(特に不都合な)事実を克明に、詳細には報告しません。

この処の猛暑を考えると地球が健全とは思えません。地球が自然治療力を十分発揮できるようにせっけんを使ってみませんか。

(岡の宮町会 瀧澤和子)



伝統の「門松」づくりに挑戦



伝統のある門松を町会長の「つくってみりや」との一言で、当時の役員が賛同！材料集めから取り掛かりま



した。竹は町会長、松は公民館長、砂利とかを副会長と。竹の「そぎ」は町会の方が機械で18本を加工してくれました。

縄の巻き数や縛り方、竹の並べ方等を調べながらワイワイ。一番の苦労は竹の切り口が綺麗に揃わず何度もやり直しました。一番高い竹は約180センチ、中間竹を内側にした「迎え飾り」とし、肝心の松は竹をもしのぐ大きさ！。南天もそれぞれの家の物を持ち寄



り、台座はペール缶6個をかき集めてコモを巻き付け素晴らしい？門松を完成させました。初めから、ひろば、児童館にもという構想だったので、それぞれに差し上げています。

令和3年は多少疲れ（竹の切り出し）もあって、地区の町会長さんにお手伝いをしてもらい北部地区センターに寄贈しました。

◆門松の由来

門松は、正月に日本の家の門前などに立てられる、松や竹を用いた正月飾りです。松飾り、飾り松、立て

現在の門松は中心の竹が目立ちますが、その本体は名前で解るとおり「松」です。古くは松などの常緑樹を飾っていましたが、鎌倉時代以後、竹も一緒に飾るようになりました。

松とも言われ、古くは、木の梢に神が宿ると考えられていたことから、門松は歳神さまを家に迎え入れるための依代という意味合いがあります。「松は千歳を契り、竹は万歳を契る」と言われ、松と竹で神の依代の永遠を願う。歳神さまはこの松門を目印に降臨してくると言われています。

竹の先端部の形状は、斜めに切った「そぎ」と、真横に切った「寸胴」の2種類があります。一説では、「そぎ」は徳川家康が三方ヶ原の戦いで武田信玄に敗れた直後、武田方から送られた「松枯れて竹類いなき明日かな」という句を、「まつか

松は「祀る」につながる樹木であり、古来の中国でも

生命力、不老長寿、繁栄の象徴とされてきました。平安時代の宮中では「小松引き」という行事が行われ、これは初子の日に外出して松の小木を引き抜くという貴族の遊びで、持ち帰った「子の日の松」を長寿祈願のため愛好する習慣があり、門松はこれが変化したものと考えられています。

元町中公民館長 木下笑子



登校を見守る「あいさつ運動」



2学期が始まった8月19日（旭町小学校）と8月23日（旭町中学校）、ボランティアの皆さんによる「あいさつ運動」が行われました。

この「運動」は8年前から、各学期の始業式の日と卒業式の前日に取り組みされているもので、気持ちよい「あいさつ」が交わされました。次回の予定は、旭町小学校は1月10日7時30分から、旭町中学校は1月5日7時40分からの予定です。



▲登校する小学生にあいさつする皆さん



▲登校する中学生にあいさつする皆さん